

子供を中心に流行する感染症

ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症 等

- ・ 新型コロナ感染症の流行により、各個人の感染予防意識が高まり、他の感染症の流行抑制につながったが、その分感染者数が減り、免疫を持つ人も減少
- ・ 今年は、5月中旬から、ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の患者数が増加

蚊媒介感染症

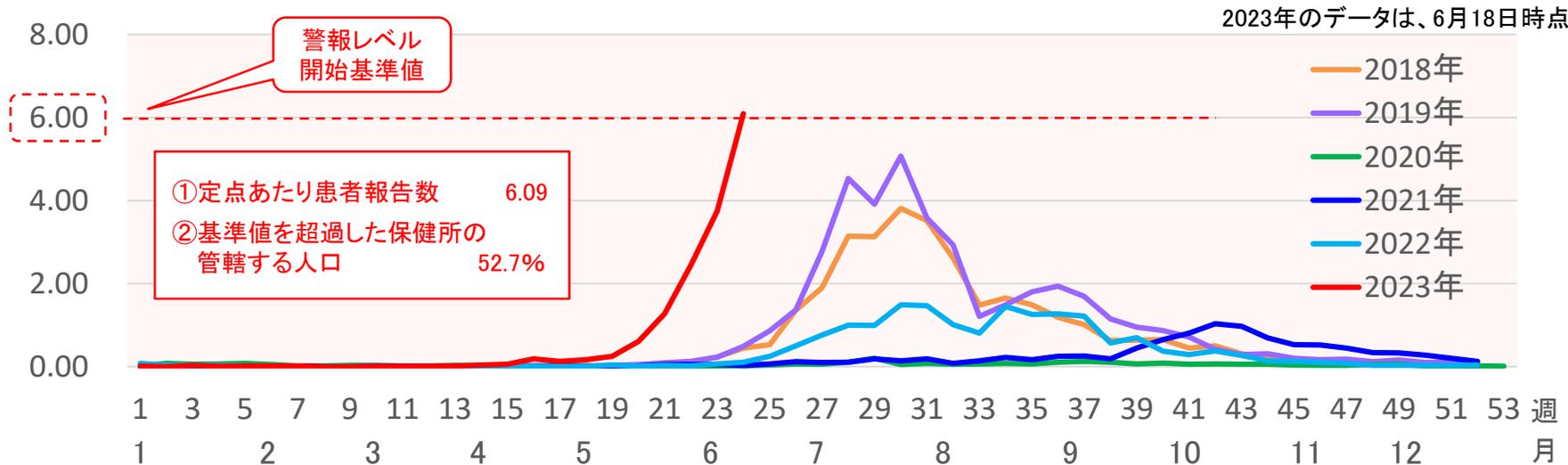
病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症

新型コロナ5類移行に伴う人の往来の増加により、海外で流行する感染症が国内に持ち込まれ、蚊の発生シーズンにデング熱等の国内感染患者発生が危惧

子供を中心に流行する感染症 ヘルパンギーナ（5類感染症）

都内における週別定点あたりの患者報告数

警報レベル開始基準値を超過



- ※ 警報の基準 ①または②のどちらかが基準値を超えた場合
- ① 定点医療機関からの患者報告数が、都全体で警報レベル開始基準値を超えた場合
 - ② 警報レベルにある保健所の管内人口の合計が、都全体の人口の30%を超えた場合

流行時期

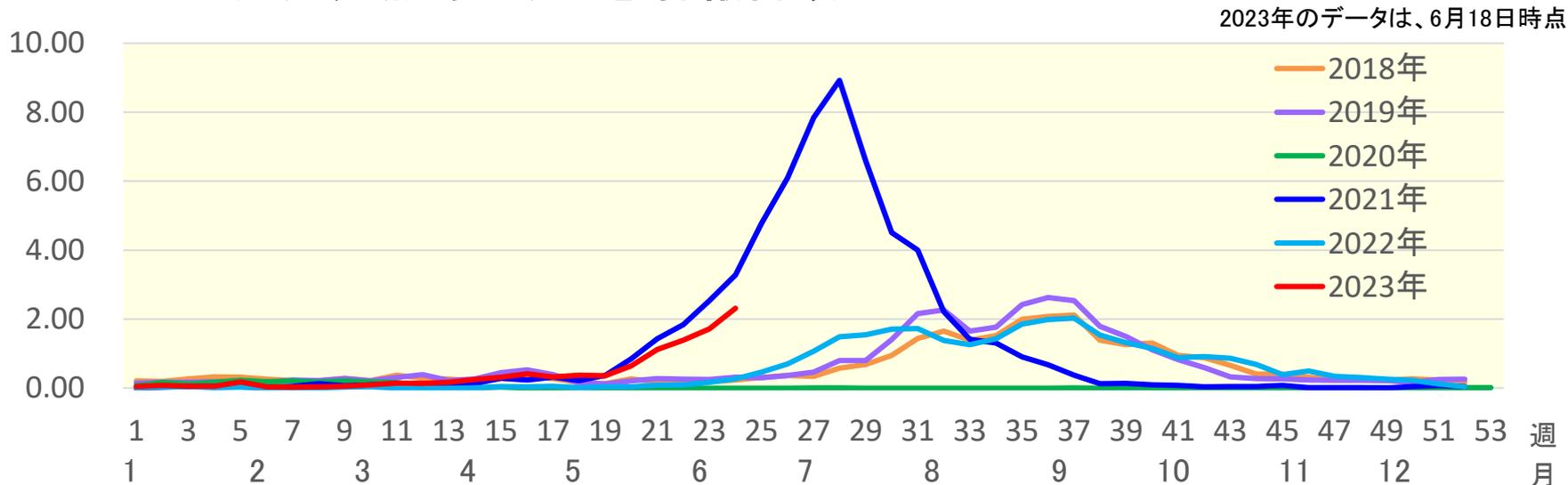
- 毎年5月頃から増加し、7月頃にかけてピーク 8月頃から減少を始める
- 本年は、5月中旬頃から感染が拡大している状況

症状等

- 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎
- 乳幼児を中心に夏季に流行 いわゆる夏かぜの代表的疾患
- 発熱に続いて咽頭痛、のどの奥や口腔内に水疱が出現
- 水疱は破れて痛みを伴うため、脱水症状や食欲不振になりやすい

子供を中心に流行する感染症 RSウイルス感染症（5類感染症）

都内における週別定点あたりの患者報告数



流行時期

- 9月頃から流行し、初春頃まで続いていたが、最近では夏頃より流行が始まる傾向
- 本年は、5月中旬頃から感染が拡大している状況

症状等

- RSウイルスの感染による呼吸器の疾患で、何度も感染と発病を繰り返す
- 生後1歳までに50～70%が罹患、3歳までにほぼすべての小児が感染
- 喘鳴を伴った呼吸困難等の症状が出現した場合は、細気管支炎、肺炎に進展することがある
- 乳幼児における肺炎の50%、細気管支炎の50～90%を占めるとの報告

子供を中心に流行する感染症

ヘルパンギーナ、RSウイルス感染症の注意点

- 有効なワクチンや予防薬はない
- 予防方法は、基本的な感染対策の徹底（手洗い・うがい・咳エチケット等）
- 過度に恐れる必要はないが、まれに重症化することもある
- お子様の様子がいつもと違う場合は、**早めにかかりつけ医等の受診を！**

都における蚊媒介感染症対策

重点的に対策を講じる必要がある蚊媒介感染症(国の予防指針)

○ デング熱 ○ チクングニア熱 ○ ジカウイルス感染症

デング熱・チクングニア熱の主な症状

- ・発熱、発疹、頭痛、関節痛、筋肉痛など
- ・デング熱は、重症化してデング出血熱やデングショック症候群を発症することがある。

ジカウイルス感染症の主な症状

- ・感染しても症状がないか、症状が軽いため気づきにくいことがある。
- ・妊娠中に感染すると、胎児に小頭症等の先天性障害を来すことがある。

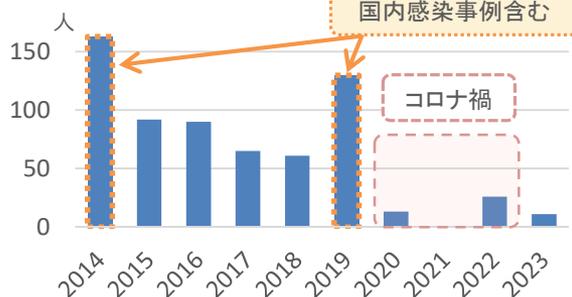
※ 世界保健機関(WHO)の勧告：妊婦は流行地域への渡航をすべきでないと勧告(2016年3月)

都内における患者報告数の推移

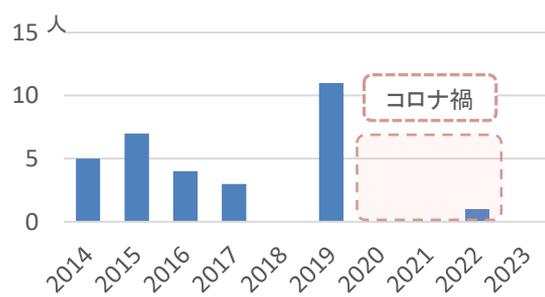
2023年のデータは、6月11日時点

- デング熱及びジカウイルス感染症等は、発生地域を旅行した際に現地で感染し、帰国後に発症した症例
- 平成26(2014)年及び令和元(2019)年には、**海外渡航歴のない方が、国内でデング熱を発症**

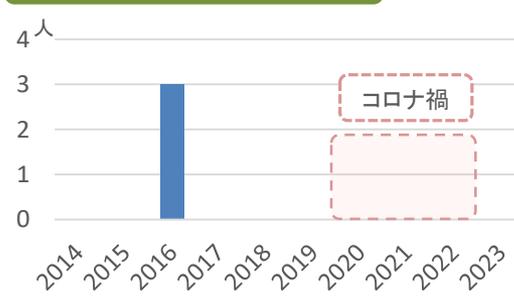
デング熱



チクングニア熱



ジカウイルス感染症



都における蚊媒介感染症対策 - 予防と対策 -

治療・予防

- デング熱やジカウイルス感染症等は、国内で利用可能なワクチンや治療薬がなく、治療方法は主に対症療法
- 屋外で活動する場合等は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用するなど、蚊に刺されないことが大切

感染してからの治療よりも、蚊に刺されないための対策が重要

患者発生時の感染拡大防止策

- 疑い患者の迅速な検査
- 患者の情報や感染症媒介蚊サーベイランスに基づき、ウイルス保有蚊・ハイリスク地点情報を提供

蚊の発生防止対策
シンボルマーク



都における蚊媒介感染症対策 - サーベイランス・普及啓発 -

感染症媒介蚊サーベイランス(調査監視)

都では対策の一環として、ウイルス保有蚊の生息調査・監視を実施

【蚊サーベイランスの概要】

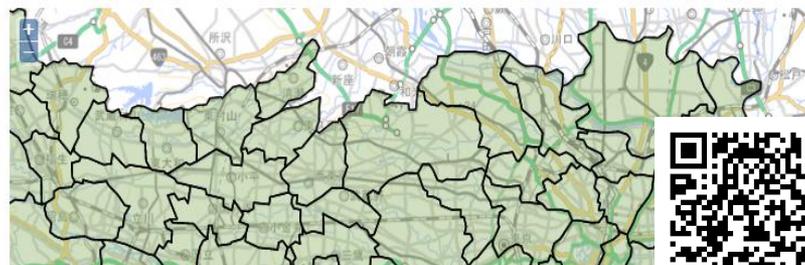
	広域サーベイランス	重点サーベイランス
調査施設数	16施設	9施設
主な調査施設	お台場海浜公園 多摩動物公園 他	代々木公園 日比谷公園 他
検査病原体	ウエストナイルウイルス デングウイルス チクングニアウイルス ジカウイルス マラリア原虫	デングウイルス チクングニアウイルス ジカウイルス
調査期間等	6月～10月 (全10回)	4月～11月 (全14回)

【ウイルス保有蚊・ハイリスク地点の情報提供】

都のホームページで情報提供

選択	疾患名
<input type="radio"/>	デング熱 (0地点)
<input type="radio"/>	ジカウイルス感染症 (0地点)
<input type="radio"/>	チクングニア熱 (0地点)
<input checked="" type="radio"/>	合計 (0地点)

疾患名を選択すると、その疾患のハイリスク地点情報が表示されます。
なお、「合計」の地点数は実数で記載しているため、各疾患の地点数の合算と合わない場合があります。



東京都感染症情報センターホームページ
<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/mosquito/mosquitomap/>

普及啓発

6月を蚊の発生防止強化月間と位置付け、蚊の発生防止対策を周知

身の回りの「たまり水」をなくして、蚊の発生を減らすことが大切

【広報】

ポスターやラッピングバス等を活用し都民に周知

